

豪雪の記憶を寄贈します

中山小・卒業記念制作版画

2010年の大みそかから

県西部を襲った豪雪。国道9号の琴浦一大山町区間で約1,000台の車が、最長42時間立ち往生しました。災難に見舞われたドライバーらに、温かい食事を提供したり、公民館を開放したりするなど、沿線住民が自発的に行つた豪雪の中での心あたたまるエピソードを忘れまいと、中山小学校2012年度の卒業生48人（現在中学1年生）が、卒業記念に版画として制作しました。

作品は畳一畳分ほどの大きさ。立ち往生した車をみんなで押し出す様子や、豪雪での出来事を当時の6年生が劇で披露している様子などを題材にし、3か月かけて完成させました。

版画は、中山温泉・生活想像館に常設展示されることになりました。4月9日（火）に寄贈を記念して除幕式が行われました。除幕式には、11年度・



▲版画をぜひご覧ください



▲スポーツは交流を深める近道です。
(大山中学校体育館)

テメキュラ市から 中学生が 4年ぶりの 訪問

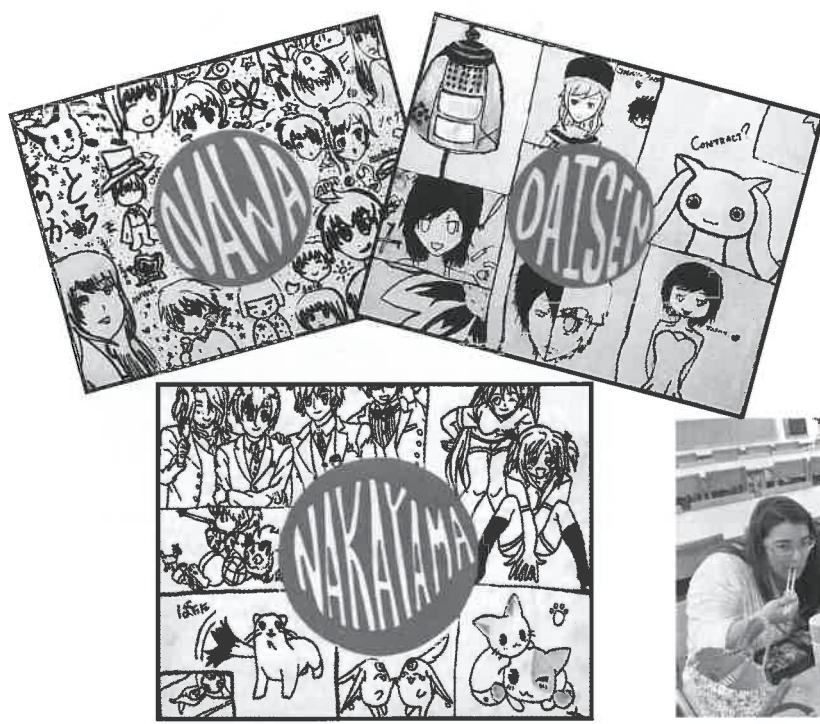
3月24日から4月1日の9日間、姉妹都市交流を行つて、いる米国・テメキュラ市から、中学生と高校生の訪問団5名が、大山町を訪れました。滞在中は、町内の家庭にホームステイし、日本の生活や文化を体験しました。日本の家族と一緒に生活することで、たくさん日本語に触れることができるので、滞在期間が

スポート交流の日は、ホストファミリーが作ってくれたお弁当で昼食。中学校のランチルームでお弁当を楽しみました。

これからも交流を続けて、お互いの理解を深めていきました。日本での学校生活の雰囲気が通じなくても一緒に楽しむことができます。スポーツ交流をしたあとの写真は、本当に楽しそうないい笑顔があふれていました。



▲いろいろなお弁当があって、とても楽しそうでした。



▲マルガリータミドルスクールから各中学校にアートが贈られました。